

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		小倉暢之	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.35	学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図る。演習では積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行う。研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行う。		0.30	学部及び大学院における学生授業評価ではTAの積極的活用により良好な評価を得る事ができた。また、ゼミでは学部生4名、院生前期課程3名、後期課程2名の研究指導を行った。さらに海外協定校との学生交流をタイ・キングモンクット工科大学建築学部の学生2名を2ヶ月間研修生として受入れ本学学生との共同学修の場を設けた。大学院後期課程2名は学位を取得し、内9月修了生は学長賞を受賞。			
研究	0.40	科研費(海外B)「東南アジア都市低所得者層のための住民目線に立つ身の文住宅供給」の研究代表者として研究組織の統括と研究に取り組み、共同研究者並びに大学院生等と共に研究した成果を国内外の論文に投稿する。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進する。		0.35	科研遂行のため、タイ国の協定校コンケン大学建築学部教官と研究打合せを行い、現地調査を実施すると共に成果の一部を学会で発表した。さらに、沖縄近代建築研究の成果が日本建築学会論文集に掲載された。			
社会貢献	0.15	日本建築学会沖縄支所長、沖縄建築士会理事、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会貢献する。		0.25	沖縄建築士会理事、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会貢献すると共に、日本建築学会沖縄支所長として、本年度九州支部研究会の開催を沖縄支所で担当した。			
管理運営	0.10	学科及び建築コースの教員として組織の円滑な運営に寄与する。		0.10	学科及び建築コースの教員として組織の円滑な運営に寄与し、国際交流活動に対して本年度工学部教育貢献賞を受賞した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		清水肇	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	専門教育、共通教育の授業を、学生との意見交換方法などを改善し効果的に実施する。 2年次指導教員として、学生のメンタルヘルス、進路相談等についての丁寧な支援を行う。			0.35	専門科目、共通教育科目において、毎回の質問・感想シートを用いて学生とのコミュニケーションを行い丁寧な指導を伴った。 2年次指導教員として、年間を通じて学生の相談およびトラブル等への対処を丁寧に行った。		
研究	0.30	生活空間連研究を進め、学会および学会誌にて発表を行う。 科学研究費(基盤(C))の3年間の研究期間の2年目であり、現地調査による一定の成果を得るとともに、初年度分までの成果を査読付き論文として発表する。			0.30	科学研究費(基盤(C))の初年度の研究のまとめとして、学会誌に論文を投稿し採択された。同テーマに関する新規の調査を推進した。 韓国、済州大学との研究交流事業を実施した。にある沖縄関連の地域資料を確認し、新しい研究の展開の準備を行った。		
社会貢献	0.15	沖縄県、那覇市、浦添市、糸満市、八重瀬町、読谷村他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献する。 学童保育施設整備に関わる施策への関与により沖縄県内の学童保育の改善に貢献する。 公開セミナー等を積極的に実施する。			0.15	糸満市景観審議会、浦添市都市計画審議会、八重瀬町景観委員会、読谷村都市計画審議会、読谷村景観委員会等を通じて地域に貢献した。 学童保育施設に関する地域の改善の取り組みに関与し社会貢献を行った。		
管理運営	0.20	工学部将来計画委員、ジェンダー協働推進室委員他の委員会を通じて、大学の管理運営に貢献する。			0.20	工学部将来計画委員、将来計画ワーキンググループ委員として、工学部改組に関わる多量の業務に従事した。ジェンダー協働推進室委員、障がい学生支援室委員として大学全体の管理運営に貢献した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	堤 純一郎		所 属	工学部 環境建設工学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	担当する授業科目を計画通り確実に実施する。卒論及び修論の学生を確実に卒業及び修了させる。博士後期課程の学生には研究論文を1編以上書かせる。		0.25	授業の実施はほぼ予定したシラバス通り実施した。一部に台風による影響や予定外の出張などにより、予定時間の変更はあったが、内容的には充足した。大学院生の指導としての研究論文の指導に関しては、投稿中の論文を含めて、ほぼ全員が執筆した。		
研究	0.30	現在、受けている受託研究と新たな自主研究を遂行する。太平洋島嶼地域の研究ネットワーク構築に向けて、環境省からの資金を調達するとともに、今年中に国際会議の開催を実現する。		0.28	受託している2つの研究に加えて、産学連携の立場からもう一つ受け入れる予定であったが、キャンパスの土地利用の問題で許可が得られず断念。ただし、来年度に向け2件の新たな研究が動き出した。太平洋島嶼地域研究者ネットワークに関しては、遅ればせながら進んでおり、3月に国際会議を開催予定。		
社会貢献	0.25	工学部後援会の事務局長として、企業からの求人活動を支援する。国、県や市町村の審議会や委員会の委員として、公的な立場から行政等の活動を支援する。		0.29	工学部後援会の事務局長は昨年度だけで、今年度は社会連携委員として活動し、就職説明会の実施と、COC事業として石垣市及び宮古島市のサテライトを使っのオンラインシンポジウムの準備と当日の実施内容に深く関わった。国、県、市町村等の審議会等の委員または委員長として行政に関与した。		
管理運営	0.20	全学のエコキャンパス推進委員会副委員長として、エコキャンパスに関する活動の推進し、その評価システムを確立する。工学部及び学科の新たな組織体制構築に向けて、必要な意見を具申する。		0.18	工学部内では社会連携委員、研究推進委員の職務をまっとうした。全学ではエコロジカルキャンパス推進委員(同企画部会主査)として、学内の環境評価等を通して、環境報告書の作成や学内一斉清掃を推進した。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		渡嘉敷健	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.25	学部の授業、建築設備計画において、昨年度も実施して来た建築設備等の施設見学を行い授業の内容を具体化して学生の理解力を高めたい。建築環境工学演習においても既設のホールの残響時間の測定実験を行いこれまでに得られた研究成果を生かした具体的な実験実習を行っていききたい。大学院の環境騒音特論では研究の環境騒音の調査を授業に取り入れたい。		0.25	学部の授業、建築設備計画において施設見学を行った。法文学部人文社会総合研究棟の建築設備全般について施設部の担当者から説明を聞いて学生の質疑にも対応して頂いた。沖縄電力牧港火力発電所の施設見学では発電の系統の説明をして頂いた。北谷浄水場と海水淡水化センターの見学を行った。さらに、宜野湾市民会館の大ホールの見学と残響時間測定を行い響きを感じてもらった。大学院の環境騒音特論では大学構内の環境騒音の調査を授業に取り入れた。
研究	0.30	音響材料開発及び遮音構法として産学連携としての技術提供を行い社会貢献を行いたい、さらに外部資金の獲得につなげられるように努力したい。現在行っている航空機騒音の主観評価調査を進めさらにデータ収集を行い研究を発展させて行きたい。学会活動として日本音響学科九州支部評議員2年間の経験を生かして学会活動に貢献したい。		0.30	音響材料開発及び遮音構法として産学連携として沖縄の産業まつりでコンクリートブロックの遮音性能を向上させた防水ブロックの遮音性能測定を講評した。航空機騒音の低周波音調査データを新聞に提供したことで住民にも理解が得られた。沖縄県石垣島で初の騒音振動研究会開催の準備を担当し、研究発表も行った。日本建築学会九州支部研究発表会沖縄大会の準備担当を行い、発表も行う。
社会 貢献	0.25	研究調査で行っている学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて実施される音響調査に専門家としての技術支援を行いたい。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行いたい。行政の委員会に貢献した。沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行う。		0.25	学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて各自治体からの音響調査に専門家としての技術支援を行った。沖縄県内の航空機騒音研究者として裁判での参考人意見陳述を行った。県内既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行った。おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行った。沖縄県建築審査会長として九州圏委員長会議を沖縄で開催し議長を務めた。4月の科学技術週間でも小中高生に対して残響室無響室の見学と音の実験を行った。
管理 運営	0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動を昨年度行い研究交流を実施した、さらに今年度も継続して研究交流に貢献したい。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に協力して行きたい。		0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動が5年目で今回も私の研究室の学生6名の研究交流を実施した。大学のオープンキャンパスにおいて残響室無響室内で実験を体験してもらった。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に建築のコース会議で議論している状況である。今後具体化していく中で協力して行きたい。
進路 指導	0.05	これまでの就職担当教員の経験を活かし、また授業等では施設見学を通して得られる経験を学生の就職支援に役立てて行けるように取り組みたい。学科同窓会の協力を得て就職説明会を開催できるように努力したい。例年実施している高校訪問の業務をサポートしたい。		0.05	学部学生及び大学院生の就職活動のことも考え、講義の中で、専門性を生かした就職状況等のビデオ等を説明を行い就職への啓発を行った。学生からの評判も良く、学生達の就職活動に生かしてもらいたいと考えている。学科同窓会の起業者の体験セミナーのDVDを就職説明に活用した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		入江徹	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目を担当し、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行う。			0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目の中で、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行った。その成果発表として、「合同設計発表会」を開催した。		
研究	0.30	建築における最先端デザインの探求を実験的に行っていく。			0.30	多くの現代建築の視察を行い、建築における最先端デザインの探求に務めた。		
社会貢献	0.15	学会の事業・学外委員会などを通して社会に貢献する。			0.15	日本建築学会九州支部常議員として貢献した。また、本学で開催された日本建築学会九州支部研究発表会の設営および運営に貢献した。		
管理運営	0.15	施設・環境委員として業務に従事する。			0.15	施設・環境委員として業務に従事した。		
進路指導	0.10	学生が卒業後の進路について検討しやすいよう情報を提供し、相談にのったり指導を行う。			0.10	学生の卒業後の進路相談に対し、情報を提供したり、準備しておくことなどについて指導を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲松 亮	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	昨年度、やや詰め込みすぎとなった基礎科目の講義内容を、時間配分や配布資料なども含め全面的に見直しする。実習や演習は学生が学んだ事を強化出来る内容とし、単純作業にならないように工夫する。今年度の1年次指導教員として、新入生が円滑に学生生活をスタートできるようにサポートする。		0.30	基礎科目の講義内容について時間配分や資料の見直しを行い、ある程度の改善が達成できた。また問題点もいくつか見つかったので、来年度の講義のために改善策を検討した。1年次指導教員として学生の相談などに対応し、円滑な学生生活のサポートに努めた。4年次学生の卒業研究について実験・データ解析・まとめ方などのサポートを行った。			
研究	0.40	これまで行ってきた研究開発テーマおよび新規テーマについて研究を行う。得られた研究データを成果としてまとめる。専門知識、また関連する知識の向上に努める。		0.40	今年度は特に新規テーマの研究について準備を精力的に進め、それに関連した実験・予備実験を開始した。また、関連した専門知識の向上に努めた。これまでに行った研究開発データをまとめ、いくつかの発表を行った。			
社会 貢献	0.20	建築士受験に向けた対策講座の講師を務める。		0.20	秋頃から建築士受験に向けた対策講座の講師として講座を受け持ち、年度末まで継続する予定。			
管理 運営	0.10	各種委員会の委員を担当することで管理運営に参加・協力する。環境建設工学科の公式HPの更新・刷新を検討する。		0.10	レク委員として、工学部忘年会の調整と運営に貢献した。環境建設工学科の公式HPについては、いくつか情報の更新を行ったが、全体的な刷新については改組の内容を含めた形で来年度以降に検討することにした。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金城春野	所 属		工学部 環境建設工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	設計製図、卒業設計の補助を行い、設計の難しさや楽しさを学生に学びとってもらおう。		0.40	学生それぞれに対し、ディスカッションしながら指導することができた。特に2年生の後期課題では、良い結果が得られた。
研究	0.40	今日の沖縄の風景を作ってきた、琉球政府時代の現代建築の成立過程を調べる。		0.30	建築学会九州支部の研究発表会にて成果を発表する予定(3月6日)。また、1950年代のRC造住宅の普及に活躍した地元建築家の貴重な資料を収集することができた。
社会 貢献	0.10	建築学会九州支部の文化事業として、沖縄建築ツアーを一般からも参加を募集して開催する。 日本建築学会主催の全国卒業設計展の沖縄会場を運営し、学内外の学生に見てもらおう。		0.20	「沖縄もモダニズム建築を巡る」バスツアーを10月10日に開催、一般から多くの参加があった。シンポジウム「戦後沖縄近代建築の特色と建築文化の継承」を開催、業界から一般まで多くの参加があった。
管理 運営	0.10	委員会の任務を行う。		0.10	ハラスメント相談委員、交通指導委員会、オープンキャンパス実施委員会等で任務を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	原 久夫.		所 属	工学部 環境建設工学科	
	職 名	准教授			
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	修士学生及び卒業研究学生指導, 確率及び統計, 土木工学概論, 測量学 I, 土質工学実験A, 土質力学 I 及び演習, 土質力学 II 及び演習, 地盤工学, 土木技術者倫理, 土木セミナー, 土質力学特論の講義を実施する。 JABEEプログラム教育委員会における改善WGを担当する。	0.45	修士学生及び卒業研究学生指導, 確率及び統計, 土木工学概論, 測量学 I, 土質工学実験A, 土質力学 I 及び演習, 地盤工学, 土木技術者倫理, 土木セミナー, 土質力学特論を講義した。 JABEEプログラム教育委員会における改善WGを担当した。	
研究	0.45	圧密沈下解析法, 赤土流出防止技術の開発, 不飽和地盤内浸透流, 地滑り防止を目的とした地盤内調査法の開発に関する研究を実施する。 地盤情報DBの防災および地盤環境への活用に関する地盤工学会研究委員会委員として, 沖縄県における地盤情報の利活用に関する研究を行う。	0.45	粘弾性構成モデルによる圧密沈下解析に関する実験および構成式に関する研究を行ってきた。残された課題を明らかにし次年度に向けた目標を設定した。普天間基地跡地利用に関連して同地区の地下水流について検討した。	
社会 貢献	0.05	沖縄総合事務局事業評価監視委員長, 沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員長, その他委員会委員(4)などの公共性の高い委員会に出席し, 専門知識を社会に還元貢献する。 九州支部沖縄地区沖縄地盤工学研究会会長として活動する。	0.05	沖縄総合事務局事業評価監視委員長, 沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員長, その他委員会委員(4)などの公共性の高い委員会に出席し, 専門知識を社会に還元貢献した。 九州支部沖縄地区沖縄地盤工学研究会会長として活動した。	
管理 運営	0.05	工学部安全衛生委員長として工学部の運営に取り組む。	0.05	工学部安全衛生委員長として工学部の運営に取り組んだ。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		入部綱清	所 属	工学部 環境建設工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行う。		0.30	JABEEに沿った教育によって、講義を行った。	
研究	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行う。		0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行った。	
社会 貢献	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努める。		0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努めた。	
管理 運営	0.10	社会連携委員委員会の委員として、委員会の運営に努める。		0.10	社会連携委員委員会の委員として、委員会の運営に努めた。	
進路 指導	0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行う。		0.10	学生の進路相談や就職のサポートを行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松原仁	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	最新の研究成果を積極的に取り入れた講義を実施することで、学問の多様性や奥深さを認識・習得させる。特に、地盤(環境)工学を学際的な視点から物事を捉える力を涵養する。			0.35	地震工学, 地盤工学, 計算力学に関する最新の知見を盛り込んだ講義やセミナーを実施した。結果として、大学院生が国内の学術会議において学術発表賞を受賞することができた(4件)。また、博士後期課程の学生を1名排出することができた。		
研究	0.35	科学研究費補助金をベースにして、微生物による地盤・岩盤風化の研究を進める。同時に、国内外の研究組織との研究交流を展開する。研究成果は国内外の学術誌や学術講演会にて積極的に発表する。			0.25	微生物による地盤・岩盤風化研究を推進するための環境を整備した。また、国内外の学術会議(口頭発表を含む)への参加、学術誌への論文投稿・採択等を達成した。		
社会貢献	0.15	県内外の大学・企業との連携を密にし、地域社会の発展と人材送出しに資する。			0.25	国家公務員2名, 地方公務員3名, 大手ゼネコン2名を排出した。また、ネパールで発生した巨大地震の調査を行い、“Recommendation”を提出することができた。更に、沖縄県における地盤沈下に関する諸問題について、県内企業との連携研究を開始することができた。		
管理運営	0.15	全学学士教育プログラム委員会委員の一人として、URGCCシステムを試行する。また、学部においては、研究推進委員会委員の一人とし、学際的かつ高度な研究活動の推進に資する。			0.15	卒業研究において、URGCCのルーブリックによる評価を実施した。また、大学法人評価のための資料などを作成し、本学工学部における研究の状況を把握し、今後の展開・改善方法について議論することができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		山田義智	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	<p>学部で「建築材料」、「環境材料学」、「線形代数学」、の必修科目や、「数理情報処理」、「構造力学Ⅲ」の選択科目を学生の理解が進むよう講義する。大学院では「建設材料学特論」で材料学の重要性を理解させる。卒論・修論では、建築材料学の研究の楽しさと建築において果たす役割を教える。修論生には学会発表や査読論文投稿を行うよう指導する。</p> <p>研究室配属の学部学生(5名)および大学院生(2名)の進路について、十分に把握・指導して有意義な学生生活を送れるよう助力する。</p> <p>また、建築コース4年次の指導教員としての責務を果たす。</p>			0.40	<p>学部講義アンケート結果は全て良好であった。大学院講義は、アル骨問題のある橋梁の見学も実施した。卒論・修論の学生にも目標通りの教育ができた。大学院生2名全員に国内学会での発表指導ができた。また、現在指導する大学院生が筆頭で査読付き論文を投稿し掲載された。</p> <p>4年次の指導教員として就職指導および修学指導を行った。</p>		
研究	0.30	<p>フレッシュコンクリートのレオロジーに関する研究で科学研究費(基盤C)を獲得しており、この研究をさらに進展させる。ゼロテクノ沖縄とフライアッシュを用いた補修塗材の開発研究を行う。さらに、コンクリート工学会で進めているコンクリート施工のPDCAサイクル委員会においては、幹事長として施工シミュレーション研究の統括を行う。</p> <p>また、飛来塩分の輸送量推定手法を用いた塩害環境評価法の確立、塩ビサイディング材のRC構造物の保護効果に関しても着実に研究を進捗させる。これらの研究成果として査読付論文を投稿するほか、さらなる外部資金の獲得を目指す。</p>			0.30	<p>コンクリートのレオロジーに関しては査読付き論文1編が掲載された。飛来塩分の研究に関しては査読付論文が2編が掲載され、現在1編を査読付き論文として投稿中である。また、コンクリートの耐久性に関する査読付論文が1編掲載された(合計で採択査読論文4編、査読論文投稿中1編)。他にも専門誌に学術記事を2件執筆した。</p> <p>外部資金は科研(基盤C)を継続しているほか、清水建設や沖縄ゼロテクノより寄付金として外部資金を得ている。</p> <p>コンクリート工学会のPDCAサイクル委員会でも幹事長の役割を果たしている。</p>		
社会 貢献	0.15	<p>日本建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員2件あり)や土木学会・コンクリート工学会の委員会活動や、擁壁製造委員、その他の県内の各委員としてその責務をはたす。また、日本建築学会九州支部の材料施工委員会委員長としての責務もはたす。</p>			0.10	<p>建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員1件あり)や建築学会九州支部材料・施工委員会委員長、土木学会および日本コンクリート工学会の委員会等の学会活動や、全国宅地擁壁技術協会調査委員、沖縄県建築審査会会長、沖縄県生コンクリート品質管理監査会副委員長、その他の県内の各種委員会に参加して活動を行い、その責務を果たした。</p>		
管理 運営	0.15	<p>生産エネルギー専攻主任および環境建設工学科建築コース主任としての責務を果たす。また、全学および工学部の各種委員を務める。教授会・専攻主任会議や学科会議・コース会議には、積極的に出席して組織運営の一助とする。</p>			0.20	<p>各種委員会には、出張等で不在でない限り積極的に出席した。また、生産エネルギー工学専攻主任、建築コース主任としての責務を果たした。工学部教育委員としての責務を果たした。教授会や学科会議・コース会議にも不在でない限り積極的に参加した。</p>		
	0.00				0.00			
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		藍檀オメル	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・土木コースが目標としている教育を目標とする。 ・土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う。 ・学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指す。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・土木コースが目標としている教育を目標とした。 ・土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行った。 ・学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指した。 		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文の投稿や学会・シンポジウムなどでの研究発表を行う。 ・所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行う。 ・科研費以外の外部資金の獲得を目指す(寄附金, 委託研究など)。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文(6)の投稿や学会・シンポジウム(8)などでの研究発表を行った。 ・所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行った。 ・科研費以外の外部資金の獲得を目指した(寄附金, 委託研究など)。 		
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学協会の委員会活動を積極的に行う。 ・学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行う。 ・国際学術会議の企画・運営や国際会議での特別講演などを行う。 ・国内外の学術論文集・ジャーナルなどの編集員を務める。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学協会の委員会活動(委員長)を積極的に行った。 ・学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行った。 ・国際学術会議の企画・運営や国際会議での特別講演などを行った。 ・国内外の学術論文集・ジャーナル(20編)などの編集員を務めた。 		
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長および専攻主任として、各種委員会において積極的に発言し、その職務を 務める ・島嶼防災研究センターの併任教授を務める ・研究推進委員、附属図書館運営委員会委員などを務める。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長および専攻主任として、各種委員会において積極的に発言し、その職務を務めた。 ・島嶼防災研究センターの併任教授を務めた ・研究推進委員、附属図書館運営委員会委員などを務めた。 		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	有住 康則		所 属	工学部 環境建設工学科		職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、「線形代数学A」、「橋設計論」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用する。各科目について授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討し、授業改善に努める。FD活動に積極的に参加する。大学院の講義を担当し、理工学研究科学生1名の研究指導を行う。1年次指導教員として、学生の修学指導、及び他学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組む。		0.30	学部科目:「構造力学I及び演習」、「橋設計論」、「線形代数学A」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。講義内容等については、PDCAシステムにより授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会等で検討を行った。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用した。学部及び学科が開催したFD活動に積極的に参加した。大学院では、「橋梁工学特論」を担当し、理工学研究科後期学生1名の研究指導を行った。また、1年次指導教員として、学生の修学指導を行い、更に、他学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組んだ。		
研究	0.25	科学研究補助金基盤研究(C)「重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐力性能評価と機能回復に関する研究」を中心に研究開発を進め、その成果は土木学会論文集、鋼構造工学論文集等に投稿する。学会活動では土木学会「鋼構造委員会」及び「鋼構造委員会アルミニウム合金土木構造物設計・製作指針作成検討小委員会」に委員として積極的に参加する。		0.25	科学研究補助金基盤研究(C)「重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐力性能評価と機能回復に関する研究」を中心に研究開発を進めた。国内外の学術論文集に3編採択された。シドニーで開催された国際会議に3編(共著者)、土木学会年次講演会に論文等を2編(共著者)投稿し発表を行った。土木学会「鋼構造委員会」、「鋼構造委員会アルミニウム構造小委員会」に委員として参加した。		
社会 貢献	0.05	国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」、沖縄総合事務局「景観委員会」、「総合評価審査委員会」、那覇市「都市計画審議会」、「那覇市上下水道事業審議会」等に委員(会長を含む)として参加し、専門的立場で意見を述べ社会に貢献する。		0.05	国土交通省「社会資本整備審議会道路分科会沖縄地方小委員」、那覇市「那覇市都市計画審議会」と「那覇市上下水道事業審議会」、那覇市「那覇市入札監視委員会」に委員長(会長)として、また、沖縄総合事務局「総合評価審査委員会」、沖縄県「沖縄県景観委員会」等に委員として参加し、専門的立場で意見を述べ社会貢献活動を行った。		
管理 運営	0.40	工学部長として、教授会、代議会を主幹し、構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努める。特に、教育組織改革(改組)に取り組む。全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会に出席し、学部の意見を述べ、関連資料については速やかに構成員に公表する。環境建設工学科土木コースJABEE教育委員会等の委員会活動に努める。		0.40	工学部長として、教授会、代議会、前期委員会を主幹し、構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努めた。特に、工学部改組に取り組み、文部科学省に7回訪問し、改組の相談を行い、改組改組計画(1学科7コース制、夜間主の廃止)について大筋の合意を得ることができた。4月に大学設置・学校法人審議会へ事前伺いの書類を提出予定である。また、全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会、全学人事委員会に出席し、学部の意見を述べ、会議の内容については速やかに構成員に公表した。環境建設工学科土木コースJABEE教育委員会等の委員会活動に努めた。		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中田幸造	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	できるだけわかりやすく興味を持てるように講義する。講義時間外も随時質問を受け付け、学生の理解が進むように努力する。 3年次指導教員としての務めをしっかりと果たす。 勉強意欲や進学意欲が高まるように研究室4年次の質問に分かりやすく答える努力をする。			0.40	例えば、力学IIIにおいては講義時間中に質問をたくさん受けるよう努力し、講義後も遠慮なく質問するよう指導することで理解が進むように努力した。他の講義においても、パワーポイントを使用するなどして視覚的にわかりやすく興味を持てるように講義した。3年次指導教員としての務めを果たした。研究室4年次学生にも研究指導やスケジュール管理などを行い明快な指導を行った。従って、目標は達成できたと思う。		
研究	0.30	日本建築学会大会で口頭発表を行う。査読付き論文を投稿する。外部資金の獲得に努める。			0.30	日本建築学会大会で口頭発表を行った。国際会議(ドイツ)で発表を行った。査読付き論文は投稿を目指して現在執筆中である。科研費の獲得には失敗したが、そのかわり学内の平成27年度若手研究者支援研究費に採択された。目標は達成できたと思う。		
社会 貢献	0.20	沖縄建築士事務所協会耐震診断判定委員会の耐震判定委員、総合事務局総合評価委員として責務を果たす。また、総合資格学院の1級建築士講座学科IV講師として、学外においてもわかりやすい講義に努める。			0.20	耐震判定委員、総合事務局総合評価委員、資格学校講師として社会に対する責務を果たした。目標は達成できたと思う。		
管理 運営	0.10	広報委員会委員長としての務めをしっかりと果たす。			0.10	広報図書委員長として務めをしっかりと果たした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		富山潤	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・土木コースの目標に照らした教育目標の設定 ・土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う。 ・学生からの意見を積極的に聴衆する。 ・教育補助者の有効活用, その資質の向上, FDへの参加 ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受ける ・オフィスパワーによる学生支援, 卒論生, 修士学生の指導を十分行う。 ・土木コース3年次指導教員を務める。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・土木コースの目標に照らした教育目標に応じた講義や授業改善マニュアルに従った改善を行った。 ・授業評価アンケート等で学生からの意見を積極的に聴取した。 ・TAの利用, FDへの積極的な参加を行った。 ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受け, 講義を実施した。 ・3年次科目の現業実習, シビルエンジニアリングを取りまとめた。 			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文の投稿, 学会での研究発表を行う。 ・科研:基盤研究(C)へ取組む。 ・所属部局以外や学外組織との共同研究を行う。 ・科研費以外の外部資金の獲得を目指す(寄附金, 国土交通省研究助成など)。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・A論文2編が採択された。その他発表論文を数編投稿した。 ・科研費:基盤研究(C)が採択され, 現在研究に取り組んでいる。 ・前年度獲得した競争的資金2件の研究を実施した。また, 奨学寄付金1件獲得した。 			
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・学協会の委員会活動を積極的に行う。 ・学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行う。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会4委員会, 日本コンクリート工学会2委員会の活動を行った。 ・その他, 県内の審議会・委員会等を多数参画した。 ・うるま市立与那城幼稚園学校評価員, 県立与勝緑ヶ丘中学校PTA会長, 県立与勝高校学校評価委員などの活動も行った。 			
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部将来計画委員を務める。 ・土木コース教育プログラム実施WGを務める。 ・琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員を務める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部将来計画委員会において工学部改組に取り組んだ。 ・学科土木コース教育プログラム実施WGをと務めた。 ・琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員を務めた。 			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		崎原康平	所 属		工学部 環境建設工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	前期の建築構造力学Ⅰ(演習担当)および建築構造力学Ⅲ(演習担当)について、学生の理解が深まるよう講義内容の充実に努める。また、後期の建築材料構造実験では、安全かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに、理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させる。4年次指導教員であるので、就職・進学に関する情報等を収集し、学生へ周知徹底および適切な指導を行う。			0.30	前期の建築構造力学Ⅰでは、学生の理解が深まるよう講義内容の充実に努めた。また、建築構造力学Ⅲでは、エクセルによる有限要素解析の演習を行い、学生が講義で学んだ構造力学の基礎知識を応用した講義を行った。建築材料構造実験では、安全かつ円滑講義が進められるよう、技術職員やTAと密に連携して実験を行うことができた。学生支援では、4年次指導教員として就職・進学に関する情報を随時学生へ提供し、適切な指導を行うことができた。		
研究	0.30	今年度は「亜熱帯島嶼環境下における塩害劣化システムの構築、若手研究(B)、課題番号15K18157」に研究代表者として採択されたことから、本研究を邁進する。また、得られた研究成果は、国内外の学会で積極的に論文投稿および発表を行う。レオロジー関連の研究についても同様に、研究成果をまとめ論文投稿・学会発表を行う。			0.40	今年度採択されたコンクリートの塩害劣化に関する科研課題の実験および研究を推進することができた。また、得られた研究成果をまとめ日本建築学会構造系論文集に投稿することができた。レオロジー関連研究についても同様に、研究成果をまとめ、コンクリート工学会およびセメント・コンクリート論文集に投稿した。		
社会 貢献	0.20	2016年3月に琉球大学において、日本建築学会九州支部を開催するので、大学間のみならず民間企業とも連携を図ることで、より社会へ還元できる最新の研究情報発信の場として運営できるよう努める。			0.20	2016年3月6日(日)に琉球大学にて、日本建築学会九州支部を開催され、学会運営および学術発表に積極的に参加した。学会では、大学間のみならず民間企業とも連携を図ることで、より社会へ還元できる最新の研究情報発信の場として運営できるよう努めた。		
管理 運営	0.10	自己評価・年度計画委員として、大学における円滑な運営に寄与するとともに、その他学部・学科内の管理運営業務を積極的に行う。			0.10	本年度は自己評価・年度計画委員として、大学期間別認証評価に係る自己評価書内の「基準6 学習の成果」について、各学科のアンケート内容を元に集計を行った。また、委員会が円滑に運営できるよう努めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			